「ジェンダー平等ミーティング」では、若い世代の皆さんがテーマに沿って日頃考えていることなどを真剣に話し合い、交流しています。また、思いを「発信する」ことにも力を入れています。

第1回 5月18日（土）

テーマ「ジェンダーとは何か？」

ジェンダーとは“文化的社会的性差”のこと。ジェンダーそのものに良い、悪いはない。「メイクをするのは女性」「男性は”ぼく“と言え」など、型にはめて強制することが問題。

そもそも前提がおかしいのではないか”気づける“ことが大事。

（滋賀県立大学 京樂真帆子教授）

・無意識のうちに「これは男性」「これは女性」と決めていることが多いのかなと感じた。
・自分以外の人のジェンダーに関する意見を聞き、自分では気づかなかったことにも気づけてよかった。
・多くの同年代の人たちがジェンダーについて関心をもっていることを知れて嬉しかった。
・偏見をなくすのは難しいけど、相手を受け入れる気持ちを多くの人がもてるようになればいいなと思った。
・アンコンシャスバイアスに興味が湧いた。

「目の前のその子のために」。子どもたちを取り巻く諸課題や、学校・大人に求められている役割について、講師とともに考えました。（教職員対象講座）

『DVについて、大人・教職員が知っておくべきこと』

DV加害者教育プログラムNOVO主催者

伊田広行さん

デートDV防止（予防）教育の意義や、子どもたちが抱えている生きづらさ、困難をチャンスと捉え課題解決におけて一緒に考えていくことの大切さ等についてお話しいただきました。子どもたちを守るために、教職員をはじめとした大人が分かっておくべきこと、教えないといけないこと、本気で伝えていくべきことに真剣に向き合うことができました。

・「シングル単位」、安全、自由、成長、自信ということを意識して、今後子どもたちやご家族に関わっていきたいと思います。
・加害者側の視点から考えることで気づくことも多かったです。
・若年世代の立ち位置からの見え方を想像することができました。
・「イヤなことはイヤ」と言える子ども、イヤと言える自分を肯定できる子どもを育てていきたいと思いました。
・子どもたちにとっての“信じられる大人”となれるよう、励んでいきたいです。

ジェンダー平等ミーティング

第2回 6月15日（土）

テーマ「性の多様性について考える」

「性のあり方」はみんなそれぞれ少しずつ違う。どれが正しいもない。受け取り方、感じ方もそのときどきによって変わる。人の数だけ性のあり方がある。

LGBTじゃない人は”ヘテロセクシュアル（異性愛者）“”シスジェンダー（からだの性と性自認が一致）“とちゃんと名前がついていて、これも多様な性のひとつ。

LGBTとふつう、じゃない。

（NPO法人 共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク 松尾タクミさん）

・どこまでふれていいのか、どういう言葉をかければいいのか
↓いろんな人がいる。その人と向き合って、その人に合ったコミュニケーションのとり方を考えることが大切
・幼少期からの教育、具体的にどのようにしていけば
↓当たり前のように「男」と「女」だけで考えたりしていないか、一人ひとりが意識して、疑問に思うようにしてほしい。
もっと本人の”好き“に寄り添っていいのでは。
・「普通」とは何だろうと考えさせられた。
・ジェンダーの問題について、もっと話しやすい社会になればと思った。

第3回 7月20日（土）

テーマ「メディアとジェンダー」

誰もがマイノリティにもマジョリティにもなり得るが、どういう状況で自分がどうなるのか、理解しておくことが、メディアを考える上では大切。重要なポイントは、「どんなメディアでありたいか」。一人ひとりの発信や発言が変わることで変化することも大きい。

そのコミュニティにおいて、自分はどういう立場をとるべきか、どういう発信をするべきか。まず大切なのは「公平性」。

（株式会社TIEWA代表取締役 合田文さん）

・平等、公平とは何かと考える時間になった。
・自分がその場のマジョリティなのかマイノリティなのか、考えながら会話などができるようになれたらと思う。
・自分の考え方のクセを、もう一度考えてみるべきだと感じた。
・自分がマジョリティ側である事柄については、どうしても無頓着になりがちであることに気づかされた。発する言葉の中に、無意識の偏見を助長するようなものが混ざってしまっていないか、考えるよいきっかけになった。
・その人自身をみて対話することが、平等への第一歩になるのではないか。

教職員対象講座

『「包括的性教育」を日本で考える ―学校講演の実践から見た成果と現状―』

びわこんどーむプロジェクト代表

清水美春さん

「平等とは何か」などコンドームひとつからいろいろ考えさせられることや、自分の本音を知り相手に言葉で伝えることの大切さ、「中一では遅い」「なんでもっと早く教えてくれなかった」といった子どもたちのリアルな思い等についてお話しいただきました。いろいろなものを背負っている”目の前のこの子“のために何ができるかを、改めて考えることができました。

・コンドームを用いた実践が、子どもたちが性を肯定的に捉えることにつながると理解できました。
・「自分が大切にされているか」という言葉が心に残りました。科学的な正しい知識とスキルを子どもたちには伝えていきたいです。
・子どもたちとの普段の関わりの中に包括的性教育の視点を取り入れることで、”自分を大切にすること“を伝えていけるのですね。
・こちらが遠慮している場合ではなく、今を生きる子どもたちの方が「しっかり知りたい」と思っていることを知りました。

『性的指向・性自認の悩みと児童生徒への対応』

特定非営利活動法人PROUD LIFE代表理事 **安間優希さん**

そもそもマジョリティ、マイノリティとは何かということや、セクシュアルマイノリティのストレスや孤独感、プレッシャー、そして本人の意思と自己決定を尊重する態度や、自身のジェンダー観への自覚が重要であること等についてお話しいただきました。LGBTかどうか：ではなく本来みんな多様であるという、『性の多様性』を考える上での大前提を、今一度見つめることができました。

・カミングアウトへの対応は本当に難しいと感じますが、”話してくれた“ということを大切にしていければと思いました。
・わかったつもりにならない。謙虚な気持ちをもち、一つひとつの場面を大切な学びどころと捉えてこれから対応していきたいと思いました。
・正か誤か、白か黒か…そのような世の中に生きている子どもたちをどのように支援していけるのか、今日のお話を聞いて深く考えさせられました。
・”マイノリティ“という言葉が少しずつでもなくなっていけばいいなと思いました。

想像したのは
誰の声、姿ですか

無意識の偏見に
気づくことから
はじめませんか

『ジェンダー平　等CM』※朗読劇

（第１回ジェンダー平等ミーティングに参加され　た皆さんが、場面設定とせりふを考えました）

ジェンダー平等ミーティングについて
もっと知りたい方はこちら！　→→→